

**2025年度 織田製菓専門学校
学校関係者評価報告書
(令和7年度)**

評価対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日

**織田製菓専門学校
学校関係者評価委員会**

1. はじめに

2025年（令和7年）4月1日～2026年（令和8年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告をもとに織田製菓専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会および製菓・外食業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2026年5月7日（火）11：00－12：30

会 場：織田製菓専門学校 教室

2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校 進路指導協議会	顧問	有識者
古谷 健	株式会社 スーパーキタムラ	技術職	パン職人 卒業生
藤野 絵美	フリーランス		フランス語通訳

3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について評価委員に報告を行い、自己評価の評価点（3・・・基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている。 2・・・基準をおおむね満たす。 1・・・基準を満たしておらず改善が必要。）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。
また、具体的な意見や提言もいただいている。

4. 自己評価に基づく学校関係者評価

項目1. 教育理念・目的・目標

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	適切3
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられていること。	2	
教育理念やポリシーが学内外に広く公表されていること。	2	

【評価結果の自己分析】

・製造販売実習では大量にケーキ・焼き菓子を製造することで、パティスリーの現場に近い方法を学んでいる。また、それを販売することで責任を持って商品を作る、あるいは販売できる商品とは何かなど、身を持って経験をする。さらに、その経験を年に1、2度ではなく定期的に回数を重ねることで技術知識の向上に役立っている。現場からは好意的な意見をいただいている。

・選択授業では自らの将来に合わせた科目を選ぶことで技術を高め就職先を考える1つの手立てにしている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

製菓製パン業界としては即戦力がほしいという声はよく聞く。したがって、毎日の実習、定期的な製造販売実習で技術・知識を高める方向性は良いと思うが、学ぶ学生たちにももう少しそれらを認識させる必要がある。

【学校評価委員の意見・提言】

・選択授業は、将来の方向性を決める良いきっかけになると思う。
 ・教育理念やポリシーは公表されているが、認知されているかは分からない。
 ・製造販売実習で実践的な経験が積めるのが良い。一般のお客様の対応や反応、売上やコスト計算など、将来自分の店を持つ時にも役立つと思う。

・値上げのお知らせや対応を学んだり、シミュレーションしたりすることを授業に取り入れるのも役立つかも知れない。

・HPや学校案内に教育理念や目標に基づいて学校の特色が分かりやすく記載されている。3つのポリシーもHPに公開されており評価できる。

・育成すべき人物像は方向づけられており、日々の授業の中で学生への意識づけを重ねていくことを期待したい。

項目2. 教育課程、教育の実施、学修成果

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	2	適切3
授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	2	
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	2	
卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2	
学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・教育課程等は学則で定められており、そのルールに則って進めている。
- ・就職を希望する学生については10月の段階で内定率100%になっていた。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・「どのような授業が学生たちの興味を引くのか」それは大切なポイントである。しかし、現場のニーズとあまりかけ離れてはいけないうし、ある程度の仕事の厳しさも教えることも必要だと考える。従って双方にとって有益な点を探し出してゆくことをこれからも課題としてゆきたい。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・就職し、現場に立ってから「イメージと違った」と感じることはあると思う。授業を通して現場の厳しさを伝え、心構えを持ってもらえればと思う。
- ・学修成果目標（就職）の達成状況「10月の段階で内定率100%」というのは、学生たちの安心材料になると思う。
- ・パンフレット掲載の最新の卒業生の内定の話や、様々な場所で活躍する卒業生の話も興味深く読めた。
- ・毎日実習があり、製造販売実習もあり、実践的な職業教育が行われている。
- ・今後の改善方策として記述されている「学生の興味をひく授業と現場での厳しさを教えることとの両立」については、教職員間で授業のあり方を研究し、日々の授業にいかしていただきたい。

項目3. 学生の受け入れ、学生支援

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	2	適切3
学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	2	
学生の学力や学習状況を把握し、補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	2	
カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	2	
留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	2	
学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	2	
学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2	
学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2	

【評価結果の自己分析】

・いずれも適切な時期にプリント配布や掲示などによって情報を提供し対応している。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

・全体的に興味のないことは見ない、読まない、理解しない学生が増えていて、期限ぎりぎりようやく相談にくる場合がある。1歩先に出ての声かけは行ってはいるが、提供した情報を早く見てもらうアイデアを見つけてゆきたい。

【学校評価委員の意見・提言】

・最近では自主性のない学生もいるので、学校側が支援を行っていても認知されていないこともあり、相談に来ない学生もいると思う。

・内容にもよるが、教員側が日々声掛けをしていくしかない場合もあると思う。

・学校から学生に向けての情報を迅速に伝えるには、毎朝の一人ひとりへの声掛けやメールが大事だと思う。

・学生募集・選抜方法に関しては問題ないと思われる。

・学生生活に関する支援に関しても特に問題はないように思われる。

・様々な情報が学生に伝わっていないようであれば、掲示板での掲示の工夫や教員からの注意喚起なども行う必要がある。

項目4. 教育実施組織、教員

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	2	適切3
教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	2	
学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2	
教員間で連携、協力体制を構築していること。	2	
学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	2	

【評価結果の自己分析】

- ・教員の確保や配置、組織編成は適正に行われていた。特に教員間での学生の情報共有は行われ、指導するうえで参考になった。
- ・教員が技術向上のためコンクールへの参加を希望した時は放課後の教室使用や作品の搬送など様々に支援した。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・教員間でコミュニケーションをとり情報を共有することやコンクール等の参加とそれに付随する支援などは、引き続き進めていきたい。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・先生方に個別の学生の状況を聞くとすぐに答えが返ってくることから、全員で学生の情報を共有しているのと感じる。
- ・教員がコンクールに出品して受賞するなどは、教員の向上心はもとより、学校側の支援があつてのことだと思う。
- ・学生の年代に合った講義・授業をすることが大切だと思う。
- ・教員の配置、組織編成等についてはほぼ適切になされている。
- ・教員間で学生の情報共有ができて、適切な指導にいかされているのは評価でき、今後も教員間の協力体制を築いていって欲しい。
- ・教員のコンクールへの参加も研修の1つであり、支援が行われたのは評価できる。外部研修を含め、教員が研修に参加できる機会を保障するようにお願いしたい。

項目5. 教育環境

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	2	適切3
インターネット接続環境を整え、学生が必要に応じて情報検索等ができること。	2	
学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	
火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	2	
施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	2	
施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	2	

【評価結果の自己分析】

- ・ 道具の点検、修理は適宜行い、壊れた場合などは新しいものを購入し授業に支障がないようにしている。
- ・ エレベータ点検、消防点検、避難訓練なども実施しており安心・安全な環境作りをしている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

・ 早急に考えるものとしては「デジタル化」があげられる。PC・タブレットを学生1人1人が持ち、授業だけでなく、学校の連絡、書類の申請もそれで完結する。利便性を考えても、現在の教育現場を考えた時も急務であろう。ただ、本校は専門の技術を学ぶところであり、現場ではPCの必要性がそれ程あるわけではないので、どこまでが有効かを検討していきたい。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・ 安全対策については特に問題無いと思う。
- ・ 火を扱う仕事なので、消防点検や避難訓練など、学生と一緒に実施できると良いと思う。
- ・ 教育環境の整備、施設設備の点検等に関しては適切に行われていると考えられる。
- ・ 学校は「学生の安全」が第一なので、安全対策・防犯対応については万全を期して欲しい。
- ・ タブレットを学生が1人1台持つことについての検討が提言されているが、費用の問題、WiFiの問題等を含め、学園全体の課題として、教育や学校の事務等にどのように生かしていくのか検討していくことが必要。

項目6. 教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校が策定している事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	2	適切3
学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	2	
学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	2	
学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	2	
学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	2	
学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	2	
当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	2	

【評価結果の自己分析】

・いずれも適正に行われていた。特に情報の公表はSNSを中心に教育活動などを発信しているし、地域との連携強化も積極的に行った結果、教育活動をしっかり行っていると広く認められるようになっている。

【今後の改善方策】 *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・これからも適切な情報公開、地域連携などを行い学校の信頼を無くさないように努めていきたい。
- ・入学者を増やし、安定した経営状況にしていくことを教員の目標にしていく。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・高等専修学校からの進学者がおり、良かったと思う。
- ・パティスリーオダの利用者が多く、地域に認知されていて人気があり、楽しみにしている地域住民もいると思う。地域と連携したイベントは大変だと思うが、本当に良くやっていると思う。
- ・パンフレットからQRコードで学校WEBサイトへアクセスするのも見やすく良い。オンライン個別相談も気軽に質問がしやすいのではないかと思う。
- ・インスタグラムも普段の学生の様子が見られて、カジュアルな雰囲気が良いと思う。学校評価の実施と、評価結果に基づく改善については、この数年で意思的に行われるようになってきたと言える。
- ・HPでの「情報公開」も改善されている。
- ・SNSやHPを活用して学校の教育活動や学修成果の情報発信も出来ているが、さらに継続的に発信していくよう努めて欲しい。

5. 総評

- これからの時代、手に職をもって働く、それも皆を幸せに・笑顔にするお菓子の世界。その実践を学べる良さを伝えていって欲しい。
- 毎日実習があり、実習に力を入れ、製造販売実習では店舗運営の実践的な学びができるという特色を訴えて、競合校との差別化を図って欲しい。
- SNS等を活用し、学校の魅力や卒業生の活躍などを積極的に情報発信し、学校の認知度を高め、高校との関係も深める中で、入学者の確保に努めて欲しい。
- 中期事業計画と当該年度の事業計画に基づいて教育活動を行い、その上で学校評価を実施し、その評価をもとに改善を図るというPDCAサイクルに基づく学校運営が組織的かつ継続的に行われることが望ましい。この数年でかなり意識的に取り組まれるようになったと感じている。ただ、今年度の自己点検評価報告書は、それぞれの項目についての現状の説明が具体的に書き込まれないため、現状把握が難しかったので、この点の改善をお願いしたい。
- 高校の進路指導が大学進学に重点が置かれ、専門学校に目を向ける高校が少ないのが現状ではあるが、入学者確保のために、SNS・HP等で学校の魅力や活動を積極的かつ効果的に発信すると共に、高校との連携で関係を深める取り組みをお願いしたい。
- 専門学校は2026年度から自己点検評価が義務化され、第三者評価が努力義務化されることになった。評価機関による第三者評価の実施について、織田学園の社会的評価を高めるためにも、2～3年のうちに実施することについて検討をお願いしたい。

以上

織田製菓専門学校
学校評価委員会